

2023年度決算説明会

2024年5月27日

田岡化学工業株式会社
取締役社長 佐々木 康彰

目次

■ 1. 会社概要	3
-----------------	---

■ 2. 2023年度決算概要	4
-----------------------	---

■ 3. 2024年度見通し	11
----------------------	----

■ 4. トピックス	16
------------------	----

- 1919年 創業 1934年 設立
- 1949年 株式上場 1955年 住友化学出資
- 2000年 「三建化工株式会社」合併

- 田岡化学工業株式会社 Copyright 2024 Taoka Chemical Co., Ltd.

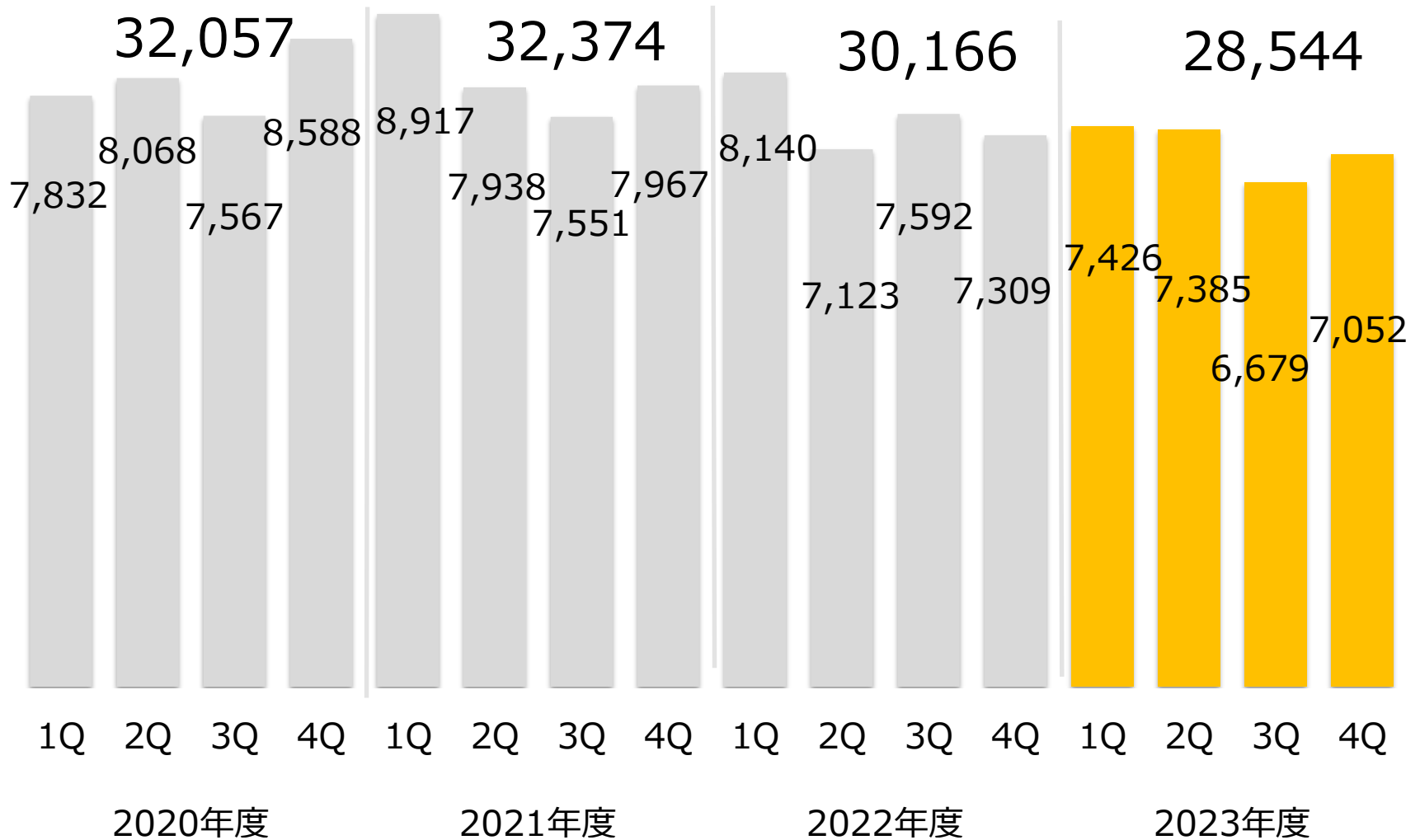
2. 2023年度決算概要

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	増減
売上高	30,166	28,544	△1,622
営業利益	451	1,074	623
経常利益	457	1,141	684
当期純利益	310	820	509
ROE	1.9%	4.9%	3.0%
ROIC	1.5%	4.2%	2.7%
為替レート(円/\$)	136.00	145.31	9.31
ナフサ価格(円/KL)	76,600	69,100	△7,500

四半期売上高推移

(単位:百万円)



事業部別売上高前年対比

(単位:百万円)

精密化学品

13,856

12,672

$\Delta 1,183$

2022年度

2023年度

- ・樹脂原料や電子材料の出荷数量の減少により減収

機能材

3,285

3,388

+103

2022年度

2023年度

- ・接着剤、ゴム薬品ともに、円安の影響により増収

樹脂添加剤

12,403

11,865

$\Delta 537$

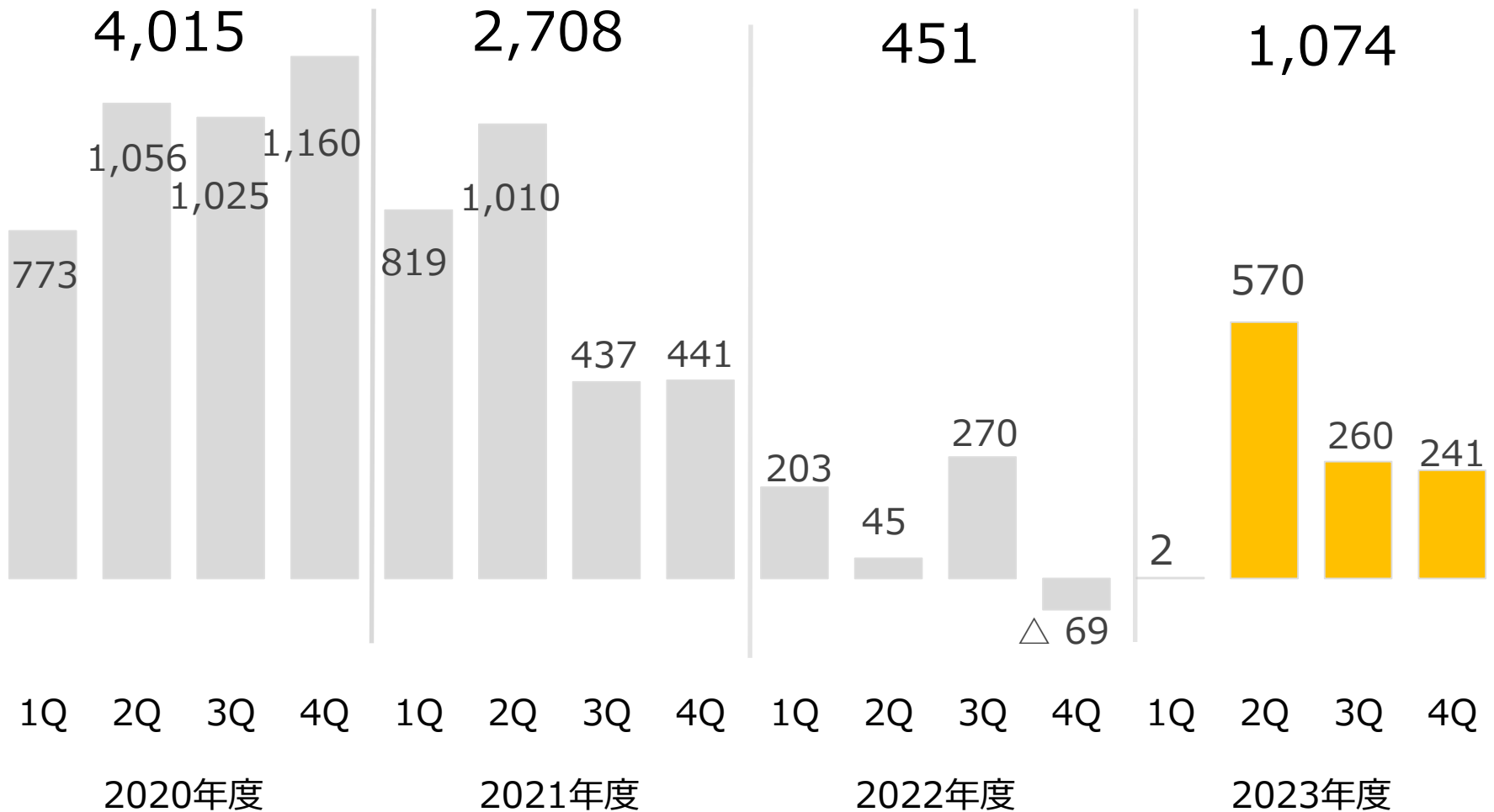
2022年度

2023年度

- ・加工樹脂は出荷減少
- ・ワニスは原料価格の低下により販売価格は低下、一方出荷数量は増加、
- ・可塑剤の出荷は前期並

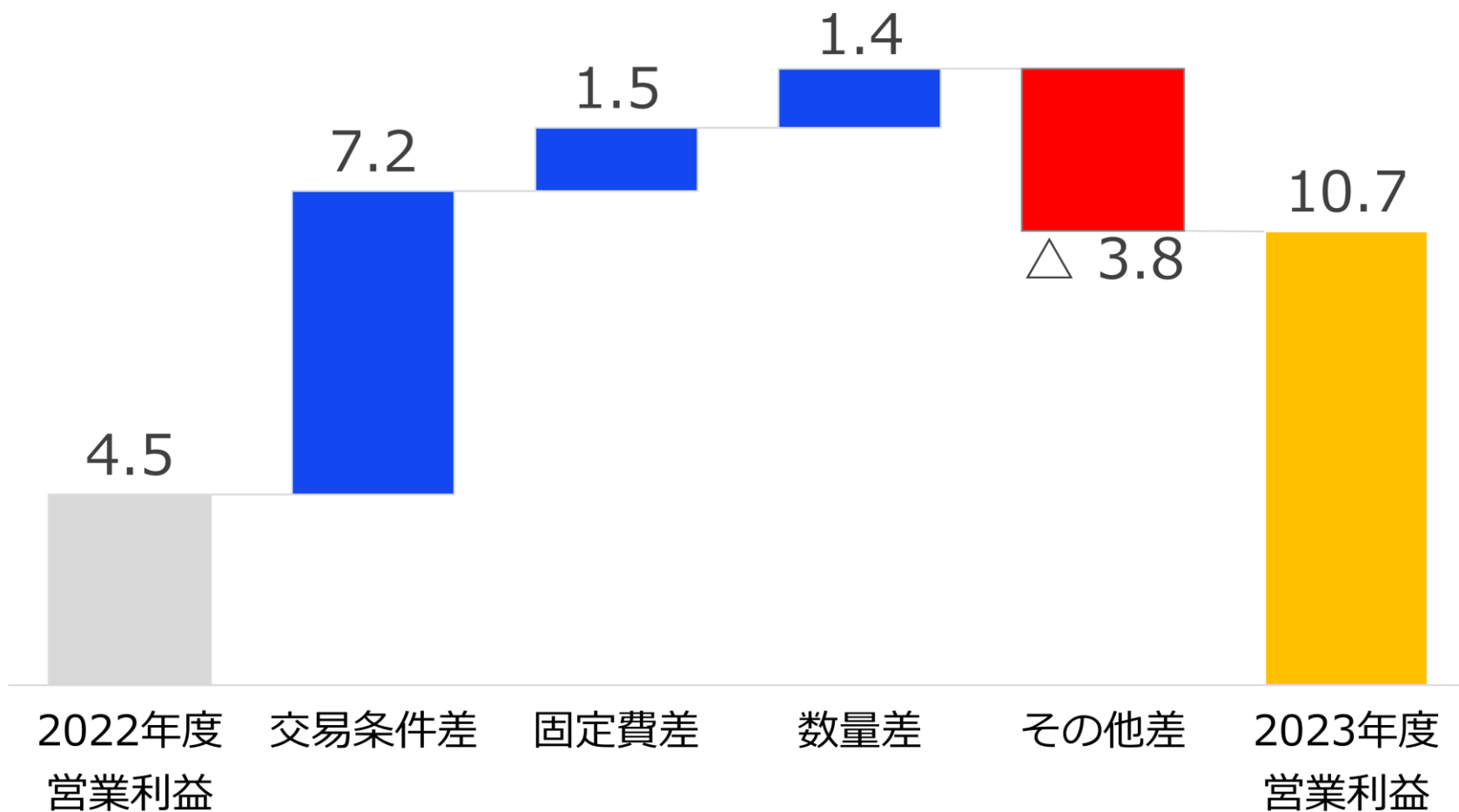
四半期営業利益推移

(単位:百万円)



営業利益対前年同期変動要因分析

(単位:億円)



貸借対照表

(単位：百万円)

	23.3末	24.3末	増減		23.3末	24.3末	増減
流動資産	16,244	15,166	△1,077	負債	14,498	12,508	△1,989
うち売上債権	4,436	5,519	1,083	うち仕入債務	4,155	4,320	164
うち棚卸資産	10,653	8,405	△2,247	うち有利子負債	4,412	2,292	△2,120
固定資産	14,824	14,552	△271	純資産	16,570	17,210	640
資産合計	31,069	29,719	△1,349	負債純資産合計	31,069	29,719	△1,349
				自己資本比率	53.3%	57.9%	4.6%

連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	増減
営業キャッシュ・フロー	1,478	3,628	2,150
投資キャッシュ・フロー	△4,339	△ 1,142	3,197
フリーキャッシュ・フロー	△648	2,090	2,739
財務キャッシュ・フロー	2,995	△ 2,389	△5,385
その他の	0	22	21
現金及び現金同等物の増減	134	118	△16
現金及び現金同等物の 期末残高 (預託金含む)	853	972	118

3. 2024年度見通し：業績予想

(単位：百万円)

	2023年度	2024年度予想	増 減
売 上 高	28,544	30,000	1,455
営 業 利 益	1,074	1,200	125
経 常 利 益	1,141	1,250	108
当 期 純 利 益	820	900	79
配 当 (円 / 株)	18円	18円	—
為替レート(円/\$)	145.31	140.00	△5.31
ナフサ価格(円/KL)	69,100	73,000	3,900

3. 2024年度見通し：セグメント事業部別売上高

(単位：百万円)

	2023年度	2024年度予想	増 減
化学工業セグメント 計	27,927	29,350	1,423
精密化学品	12,672	12,700	28
機能材	3,388	3,550	162
樹脂添加剤	11,865	13,100	1,235
化学分析受託事業	617	650	33
合 計	28,544	30,000	1,456

樹脂原料 需要動向及び来期の見通し

・ 2023年度

- ①調査会社によればスマートフォン出荷台数は軟調なるも、市場は底を打ちつつある。
- ②顧客の光学樹脂ポリマーの販売は回復傾向にあるものの在庫調整継続。

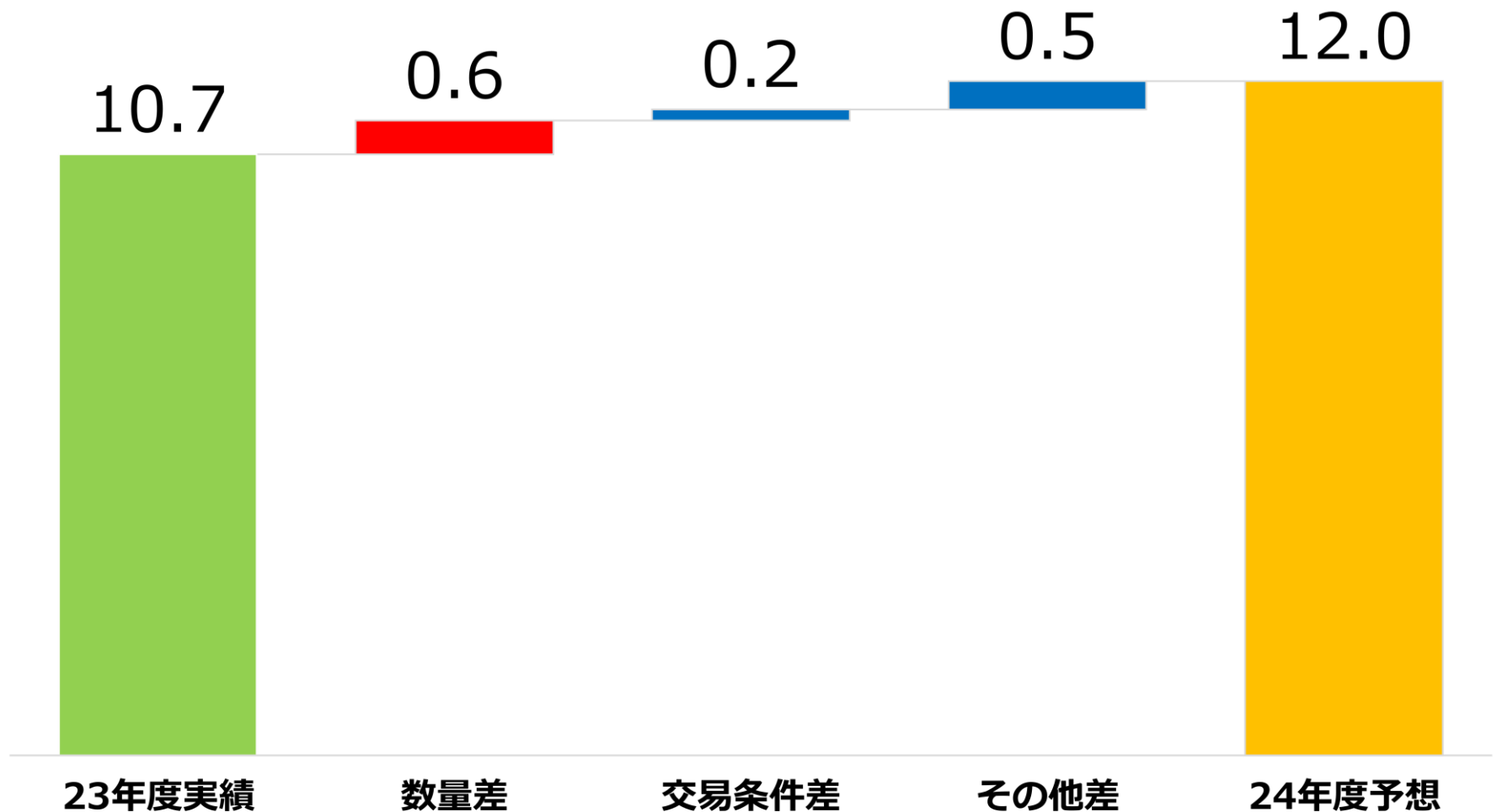
・ 2024年度

スマートフォン市場は回復基調なるも、顧客および当社の在庫調整は依然継続の見通し。

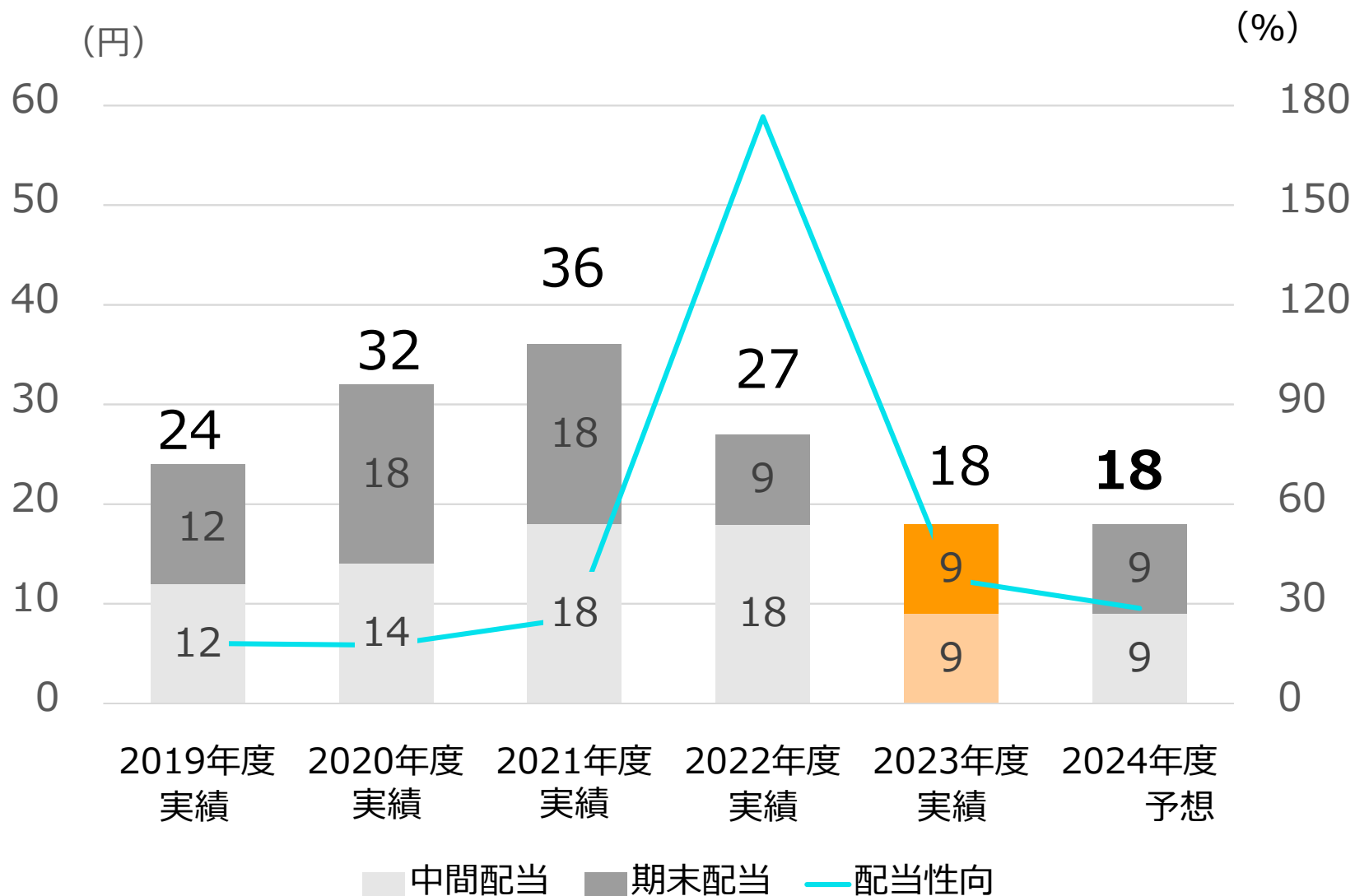
今後、スマートフォン出荷台数の回復や自動車の自動運転やクロスリアリティの市場拡大を含めて、当社材のトレンドとしては増加を見込む。

2024年度営業利益予想：2023年度実績対比

(単位:億円)



2024年度：配当実績推移及び配当予想

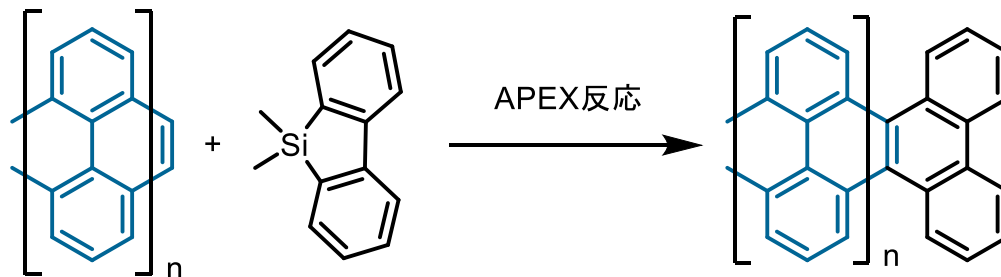


4. トピックス

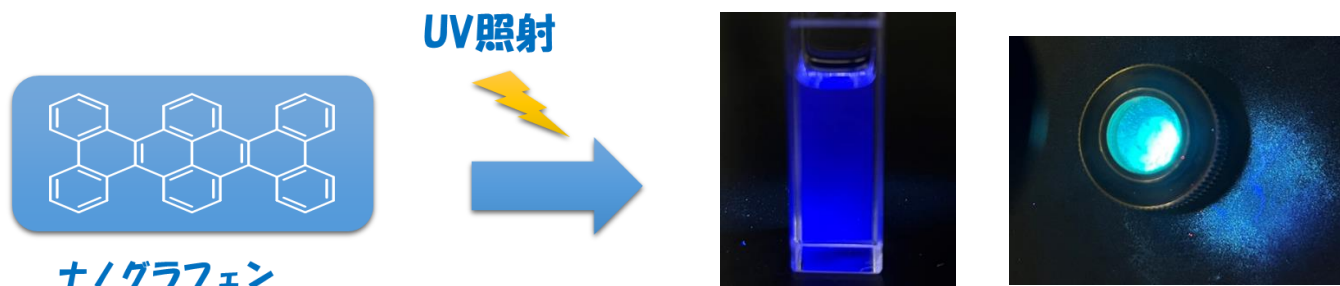
- (1) ナノグラフェン類の開発
- (2) 生分解性、バイオマス可塑剤の開発

4. トピックス（1） ナノグラフェン類の開発

- 名古屋大学と、**グラフェンナノリボンを含むナノグラフェン**の共同研究を継続中であり、2024年4月より特性評価に関する内容を追加
- 共同研究を通して習得した「APEX反応」を基本技術として、様々なナノグラフェン類化合物の製品開発を**継続中**



- 2024年1月より、キシダ化学株式会社を通じて発光特性・半導体特性を有するナノグラフェン類について試薬販売を開始



4. トピックス（1） ナノグラフェン類の開発

- 2024年2月 当社が開発する様々なナノグラフェン類の商標登録を完了

「NanoPapillon」

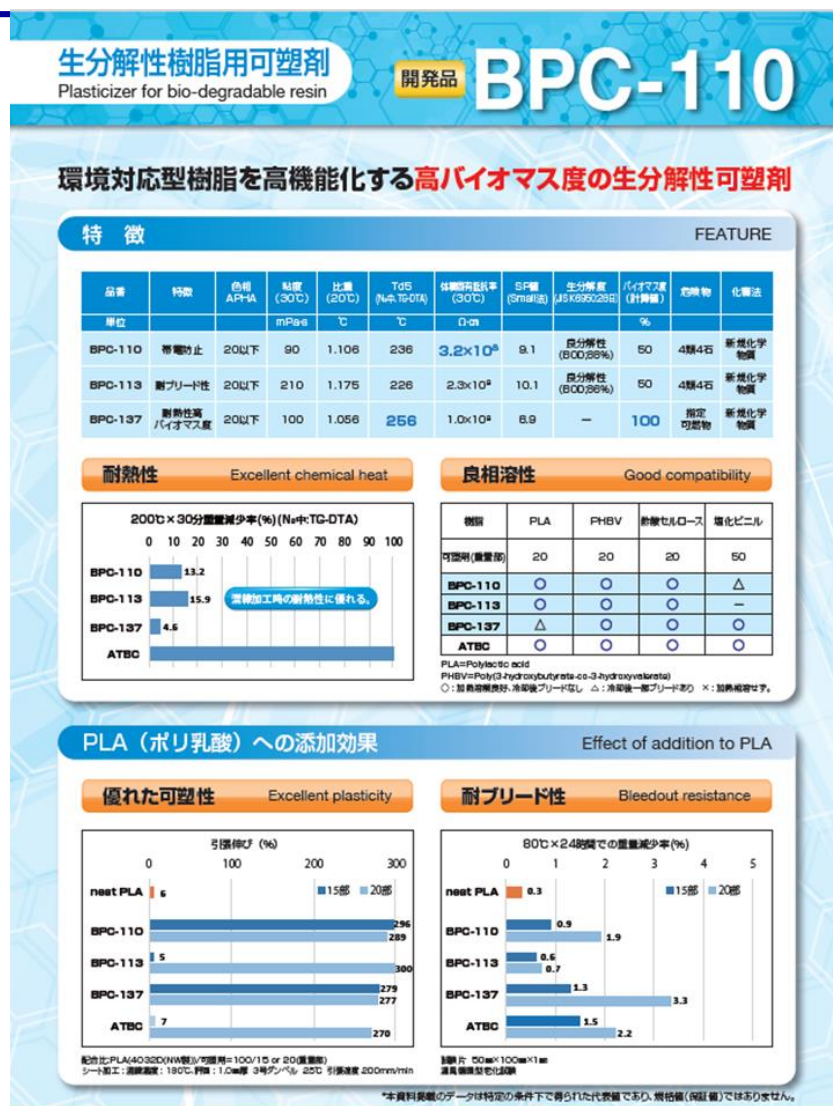


- 当社ナノグラフェン類は、品質および特性の再現性に優れることから、一般的なナノグラフェン類と**本商標を利用して**差別化し、当社ナノグラフェン類のシリーズ化を推進



4. トピックス（2）生分解性、バイオマス可塑剤の開発

- 石油由来の非生分解性プラスチックによる地球温暖化、環境汚染等の問題に対応するため、生分解性プラスチック向けの**生分解性可塑剤**(BPCシリーズ)を開発中。
- 従来から生産しているラップ用、潤滑油用等の可塑剤において、その原料を生物資源に代替した**バイオマス可塑剤**(Bio-ATBC等)の開発にも注力している。
- 開発品はホームページや各種展示会を通じ、積極的なサンプルワークを展開中。一部は販売を開始。



質疑応答

ご質問方法

「手を挙げる」ボタンをクリックしてください。

ご質問が終了しましたら、「手を降ろす」をクリックしてください。

2023年度 決算説明会

ご参加いただき、誠にありがとうございました。